

食品に関するリスクコミュニケーション(東京)
 -放射線照射食品をめぐる国際的な状況-
 アンケート集計結果

開催日:2007年9月3日(月)

参加者数: 202名 回答数: 145名 回答率: 71.7%

問1 あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きます。

性別

回答内容	件数	割合
1. 男性	113	77.9%
2. 女性	31	21.4%
無回答	1	0.7%
合計	145	100.0%

年齢

回答内容	件数	割合
1. 20歳未満	0	0.0%
2. 20歳代	5	3.4%
3. 30歳代	24	16.6%
4. 40歳代	48	33.1%
5. 50歳代	40	27.6%
6. 60歳代	18	12.4%
7. 70歳以上	9	6.2%
無回答	1	0.7%
合計	145	100.0%

職業

回答内容	件数	割合
1. 消費者団体(生活協同組合関係者 など)	8	5.5%
2. 主婦、学生、無職	3	2.2%
3. 生産者	1	0.7%
4. 食品関連事業者・団体(加工、流通、販売 など)	56	38.6%
5. マスコミ(新聞記者、カメラマン など)	2	1.3%
6. 行政(自治体職員、独立行政法人等職員 など)	21	14.5%
7. 食品関連研究・教育機関(教員、研究職員 など)	17	11.7%
8. その他	32	22.1%
無回答	5	3.4%
合計	145	100.0%

10. その他

食品分析
検査機関(厚生省登録検査機関)
商社
食品衛生コンサル
放射線発生装置の製造、販売(EB)
電機メーカー団体
薬品関連事業者
コンサルタント
研究員
製薬
電機メーカー
原子力関連事業者
電力会社
原子力関係公益法人
料理研究家
機械設備メーカー

検査装置取扱会社
NPOSD
電子線照射サービス会社勤務
原子力
公益法人(輸入食品安全)
照射サービス業
消費生活アドバイザー × 2
食品安全関連NPO
食品化学consultant技術士
食品コンサルタント
エネルギー啓発団体、とくに原子力PR
放射照射サービス

本日の意見交換会開催をどこでお知りになったか

回答内容	件数	割合
1. 食品安全委員会のホームページ	56	38.6%
2. 食品安全委員会からのご案内資料	17	11.7%
3. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	30	20.7%
4. 関係団体からのご案内資料	22	15.2%
5. 知人からの紹介	9	6.2%
6. その他	6	4.2%
無回答	5	3.4%
合計	145	100.0%

6. その他

研究所、安心安全ゼミOGから (関連a/b)
省メールマガジン
新聞
社内の開発部メンバーから 新聞か 新聞のどちらか 新聞

本日の意見交換会に参加された目的

回答内容	件数	割合
1. 放射線照射食品の安全性について知りたかったから。	25	17.2%
2. 放射線照射食品に関する国際的な状況について知りたかったから。	66	45.6%
3. 放射線照射食品に関するWHOの評価を知りたかった	18	12.4%
4. 専門家と直接意見交換をしたかったから	5	3.4%
5. 業務の一環として参加する必要があったから	9	6.2%
6. 国が行うリスクコミュニケーションの取組について知りたかったから。	10	6.9%
7. その他	1	0.7%
無回答	11	7.6%
合計	145	100.0%

7. その他

具体的な国際的立場の人の見解やニュアンスを知りたかった
放射性食品の安全性についての国民の関心が知りたかったから。

「100%安全な食品はないこと」について、あなたはどのように思われますか。

回答内容	件数	割合
------	----	----

1. 強くそう思う	87	60.0%
2. ややそう思う	40	27.6%
3. あまりそう思わない	4	2.8%
4. 全くそう思わない	1	0.7%
5. わからない。	1	0.7%
無回答	12	8.2%
合計	145	100.0%

問2 本日の意見交換会についてお聞きます。それぞれあてはまるところを で囲んでください
意見交換会開催時期

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	14	9.7%
2. 適切だった	107	73.8%
3. あまり適切ではない	8	5.5%
4. 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	16	11.0%
合計	145	100.0%

開催方法(参加手続き・場所・所要時間)

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	12	8.2%
2. 適切だった	111	76.7%
3. あまり適切ではない	12	8.2%
4. 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	10	6.9%
合計	145	100.0%

配布資料

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	15	10.3%
2. わかりやすかった	102	70.4%
3. わかりにくかった	20	13.8%
4. 全くわからなかった	1	0.7%
無回答	7	4.8%
合計	145	100.0%

海外の専門家による講演

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	21	14.5%
2. わかりやすかった	97	66.9%
3. わかりにくかった	20	13.8%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	7	4.8%
合計	145	100.0%

意見交換時の応答

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	10	6.9%
2. わかりやすかった	87	60.0%
3. わかりにくかった	23	15.9%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	25	17.2%
合計	145	100.0%

意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1. 評価する	25	17.2%
2. おおむね評価する	87	60.0%
3. あまり評価しない	11	7.6%
4. 全く評価しない	0	0.0%
無回答	22	15.2%
合計	145	100.0%

問3 本日の意見交換会は、あなたの仕事や生活にとって、有益なものでしたか。

海外の専門家による講演について

回答内容	件数	割合
1. とても有益だった	36	24.8%
2. ある程度有益だった	85	58.6%
3. あまり有益でなかった	13	9.0%
4. 全く有益でなかった	0	0.0%
無回答	11	7.6%
合計	145	100.0%

意見交換時の対応について

回答内容	件数	割合
1. とても有益だった	25	17.2%
2. ある程度有益だった	86	59.3%
3. あまり有益でなかった	10	6.9%
4. 全く有益でなかった	1	0.7%
無回答	23	15.9%
合計	145	100.0%

問4 本日の意見交換会に参加して、参加する前と比べて、放射線照射食品に対する考え方は、どのように変わりましたか。

1. 放射線照射食品に対する不安が

回答内容	件数	割合
1. なくなった	21	14.5%
2. 減った	35	24.1%
3. 変わらない	70	48.3%
4. 高まった	3	2.1%
無回答	16	11.0%
合計	145	100.0%

2. 今後、食品安全委員会は放射線照射食品の安全性を

回答内容	件数	割合
1. 評価したほうがよい	72	49.7%
2. リスク管理機関からの要請を受けてから評価すべき	19	13.1%
3. 情報収集・公開に力を入れるべき	33	22.8%
4. その他	2	1.4%
無回答	19	13.0%
合計	145	100.0%

4. その他

公正な立場で判断すべき。独自の意見も必要だが、無駄な規制はすべきではない。
安全性を消費者にPRしてほしい。
コーデックスの活動を国民に知らせるべき。その結果をもっと利用してほしい。
情報源が古い？WHOのスタンスは理解出来た。この10年間で分析技術が向上している。複合次元での研究も必要。又自然界の影響についても研究が必要。

問5 食品安全委員会が行う食品健康影響評価について、どの分野の啓発ソフトがあるとよいと思われるですか。

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1. 添加物	60	41.4%
2. 動物用医薬品	26	17.9%
3. 器具・容器包装	19	13.1%
4. 化学物質	37	25.5%
5. 汚染物質	33	22.8%
6. 微生物	28	19.3%
7. ウイルス	21	14.5%
8. プリオン	22	15.2%
9. かび毒・自然毒等	52	35.9%
10. 遺伝子組換え食品等	56	38.6%
11. 新開発食品	32	22.1%
12. 肥料・飼料等	13	9.0%
13. その他	7	4.8%
無回答	19	13.1%
合計	491	

13. その他

健康食品
動物(家畜)への抗生物質使用を制限すべき、耐性菌問題
いわゆる健康食品の評価(有効性も含めて)
ISO22000
照射食品
食品に混入する異物

問6 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んで、をつけてください。

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1. 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと(原則公開されていること)	91	62.8%
2. 食品安全委員会ホームページ(http://www.fsc.go.jp)	121	83.4%
3. 食の安全ダイヤル(食品の安全性についての情報提供)	57	39.3%
4. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	78	53.8%
5. 食品安全モニター制度	57	39.3%
6. 季刊誌『食品安全』	58	40.7%
7. 食品の安全性に関する用語集	56	38.6%
8. 食品の安全性に関する政府広報	39	26.9%
9. その他	0	0.0%
無回答	15	10.3%
合計	572	

問7 食品の安全性を確保していく観点から、意見交換会などのリスクコミュニケーションで取り上げて欲しいテーマはどのようなものですか(3つまで)

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1. 食品添加物	46	31.7%
2. 残留農薬	35	24.1%
3. 食品中に存在する汚染物質・化学物質	46	31.7%
4. 遺伝子組換え食品	39	26.9%
5. 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質)	18	12.4%
6. BSE	8	5.5%
7. 食中毒(微生物・ウイルス・かび毒・自然毒)	27	18.6%
8. 鳥インフルエンザ	3	2.1%
9. 新開発食品	18	12.4%
10. いわゆる健康食品	50	34.5%
11. リスクコミュニケーション	13	9.0%
12. リスク分析の考え方	29	20.0%
13. 食育	6	4.1%
14. その他	12	8.3%
無回答	19	13.1%
合計	369	

14. その他

1	測定値の信頼性はどう確保されているか
2	照射食品
3	食品の輸出国に対する日本国の取り組みについて
4	突然変異毒性試験は同地域で10年単位で行なわれるのが有効と思う
5	ISO22000
6	HPのトランス酸の報文は大変良かった。摂取量は硬化油生産者からの推定が正しい。マーケットバスケット対象のとり方が不良であった。
7	れる食品情報を排除する方法
8	照射食品
9	輸入食品×2
10	放射能照射
11	食品照射
12	放射線照射食品
13	国際機関と日本政府の考え方の相違

問8 科学者とそれ以外の方とのリスクコミュニケーションをすすめていく上での必要なもの/本リスクコミュニケーションの感想

1	このような意見交換の場をもっと増やして欲しい
2	・展示会をプラスした様な今回の講演会形式・良い時間が持てたと思います
3	照射食品について同じ科学者でも安全派と反対派がいる。同じ席を並べて議論する場が少ないので、誤解されているのではないか？
4	具体的データを示めさず、全体論(まとめ)として安全である型式のコミュニケーションは不満をうむだけであるので、やめるべきである
5	相い反する考えとの意見交換が相手の話を十分聞く姿勢で出来ればと考えま
6	・Q&Aを積み重ねていき資料として作成・公開
7	今後も積極的にリスコミをやっていたらきたい。食品安全委員会は、自ら食品の安全についての評価を行っていたらきたい

- 8 今回の場合、ポジティブな結果だけを示し、害がないとしているが微生物は殺菌され、発芽は阻害されるのであるから、何らかの作用が生物の上に働いている訳です。それが悪影響を及ぼさないかがどうか、知りたい所と思われます。また、諸外国で照射された食品の検査方法などについても知りたい。添付資料でもよいので、詳細な資料を見たい。
- 9 机のある会場にしてほしい。2講演ぐらいしてほしい
- 10 1. 食品照射には、日本ではやはり問題だというこれまでの認識に間違いはなかったと印象を受けた。2. 日本の批判にとっても耐えられない理 であることが判明した。3. モイ博士は、日本の心配を正確に把握していない、と思った。
- 11 会場が暑かった。
- 12 ・地道に各所と手を組んで広報活動を推進すること。
- 13 ・専門家の方からの講演の中に概論だけでなく、日本における関心事(トピックス的)に関する内容も含めて頂きたい。・リスクコミュニケーション開催案内時に、もう少し詳細な内容説明(サマリー)を加えて頂きたい。
- 14 食品照射の講演を聞き、益々、その安全に対して認識を深めることができた。先進各国、世界で40もの国々が照射を認める中で、何故、日本はじゃが芋だけなのか?「業界が申請しないから」では済まない話だと考える。食品(食材)の多くを輸入に頼る日本が、非照射食品(食材)だけで本当に対応できるのか?も早、政府機関がリーダーシップを採って進めるべき時代になったのではないか?
- 15 ・照射食品に関する安全性または、それに関するデーターのPR不足を感じました。
- 16 リスクコミュニケーションの出発点は“1F”から!!急性毒性は問題なくても、今後の普及により各々の複合により、変異性は全く考えられないのか不明。安全神話は有り得ない訳で、多量に消費拡大されていく中でどの様な事が考えられるか、情報収集していく事が重要であり、そうした感覚を市民が持てる様啓発していく事が必要。盲信させてはいけない!
- 17 最近の食品会社の不祥事()から、食品安全マネジメントシステムの導入が重要と考えられる。消味、消味期限、5S、リスク評価、SSOP等、しくみによる食品安全の確保について、取り上げていただきたい。
- 18
- (1)日本では食品安全に関する情報源がマスコミにかたより、あまりにも「いいかげんな情報」があふれている。例えば現在の中国食品叩きは度をはずしている。実際はこの数年間に同国の食品安全は大きく改善され、輸入時の検査件数に対する違反等はUSAの1/2以下である。中国からの輸入なしには日本は立ち行かない。将来の友好関係を考えるべきで、食安委はこの様な情報を大いに発信すべきである。(2)食安委のリスクコミュニケーション発信はタイミングが大切。科学的に正しい情報を適切に適時に発信すべき。公報にもっと力を入

19	「食品の安全性に関する用語集」の必要の無いわかり易い言葉で一般の人と専門家とがリスクコミュニケーションが出来る環境作り。15年以上前、香辛料会社の研究室において熱気流殺菌の導入及び事務局会社として、先生のお手伝をして、照射スパイスの微生物、官能、経時変化などの評価にたずさわりました。スパイス、ハーブに関しては照射殺菌のアドバンテージはあきらかでした。当時はリスク評価、リスク管理の責任部署もあいまいでした。食品安全委員会の誕生によって、評価機関、管理機関があきらかとなった今日、
20	ゼロリスクの考えが流布していたわが国が、突然に、(市備訓練することなく)リスクアナリシスを取り入れた。一般市民のみならず科学者においても十分にリスクアナリシスを理解しない状況で食品安全委員会がリスクアナリシスを取り組んだ。まず国民全体がリスクアナリシスのspiritを充分理解したうえで国の安全行政を再構築すべきであった。従って、まずリスクとは何かを徹底して普及すべきである。科
21	香辛料の放射線殺菌やニンニクの発芽防止(放射線による)について許可してもらいたい
22	・照射食品が安全ならば、表示方法を工夫して欲しい。・コスト、リスク、ベネフィットの衡量評価の結果をわかりやすく伝えることが必要。・一般公衆(素人)の疑問、懸念にきちんと誠実に応えることが重要。・水際でかるうじて防御できるシステムが確立していることをきちんと説明することで安心感を高めることも必要と考える。(フェイル・セーフ、フル・プルーフ、多重防護といった安全確保思想)
23	現行の方法で良い。
24	有難度う御座居ました。
25	Q1.ドイツにおいて、EU - Regulationには準せず、照射を禁じている理由は何故ですか。(1)科学的理由(2)経済的理由(3)等による消費者運動Q2.ドイツ国内においては、ドイツ国内で食品に照射処理をしていないことをどのように管理しているのですか。
26	一般の人達の知識レベルにもよるが、本日の様に、放射線食品について、反対の立場の人が同席すると、より知識が深まると思われます。例えば、検知方法が無いかの様にレクチャーされていたのですか、本当なのか、の所長の話しと違う様な気がしますし又、単品では安全かもしれませんが、食べ合せた時は?
27	今日の話は、国民全体へ、例えばマスコミを通じ行ってほしい内容である。もっとも新鮮さはなかったが、この会場内の人には放射線と放射能がちがうのはもともとわかっている人だけだと思うが、一般大衆は、その区別がわからなく、アレルギー的発言をする人が多い。そこを解決しないと、いくら科学で結論だしてもはじまらない。BSEのにのまいに。
28	(1)リスクは伴うもの(2)世界でこれだけ実施されているので、日本も一歩進めて良いのではないか、今のままでは前に進まない
29	一般消費者の照射食品に対する知識、不安の解消が必要
30	・厚生省の検討を待たずに早く食品照射について検討を進めてほしい。・特に、スパイスについては有意義であり、先行して許可してほしい。
31	食品安全委員会には、再新知見の評価を反映し、スピード感のある食品安全への対応をお願いしたい
32	食品の6割以上を輸入に頼る日本においては、世界の動向を国民に知らせる努力が必要。「ないものねだり」をしないよう国民を教育し、食品を科学的に理解し、選択するようになればいいと思う。食品安全委員会の方々には大変だと思うが、コーデックスとも近づき、世界的視野でかつ日本の食文化にあった判断をされるよう期待します。・照射食品は早く認めるべき。照射された原料を使った加工食品の輸入は、どうなっているのか。中途半端である。・モイ博士と、国内の専門家との話合も聞いてみたかった。

33	正しい知識をもって判断できるよう、小・中学校での食育に力を入れるべき。正し
34	知識、認識さのかんりがあります。たとえば「リスク」と「ハザード」・「リスク」のものさし(例をあげて、それとの比較など客観的かつわかりやすいトランスレーションが必要と思います
35	何を目的とし開催されたものが、はっきりしていない。開催のターゲットをもっと絞った方が良い
36	まだまだ、末端の消費者と科学者では食品に対する理解の仕方が異なっている。近年の消費者は従来にも増して食品に対する理解が不足ぎみであり「食育」というレベルでの教育も必要な状況である。リスコムはそのような深い多段階のレベルでの交流も必要であり、どのような「交流」が効果的か人文科学的なアプローチをとり入れることも考えるべきではないか？
37	今回は直接フロアーからの質疑になって、これはこれでとても良かったと思う。ただ参加者が多様な立場になっているようなので、輸入業界、技術産業業界、消費者、リスク管理行政の方のパネルディスカッションがあっても良かったのではない
38	リスコムはとても良いと思うが、テレビ等でもっと取り上げてもらえる様にマスコムにも働きかけをしてほしい
39	海外の専門家だけではなく国内の専門家の方にも同時に出ていただき比較しながら話が聞けるとよいと感じました。質問・Spice1について、照射対象として、数10年でも変質しないコショウやひと夏で虫がつくとうがらしなどの全く性質の違うものをすべて1対象の同じものとして行われているのか。もしかしたら全く照射の必要がなかったかもしれない品種にも同じ基準でくらわれているのかを知りたいと思います。どのような品種、品種数をもって対象実験を行っているか。将来はSpiceはSpiceとしてやはりひとつに考えられてゆくのか。もし分
40	全体を通して 実際のdataが示されることが重要と考えます。それによってより客観的な判断がある程度ではあっても出来ると考えます。今回の講演では述べられただけで全くdataが示されず客観性が講演の中に感じとれません。有害性、安全性評価のdataが示されるべきであると考えますが...
41	照射食品について「自ら課題」として取り上げなかったことは非常に残念だ。食品安全委員会の存在意義が問われるのではないか？
42	非常に淡々とした説明で立場も分かりやすく、良かった。ただ、もう少し前提の知識について資料を配布すると、より理解しやすいのではないか。またどうして専門家(放射線の)ではなかったのか。専門家がリスコムした方が良いと思う。
43	WHOの立場は、「食品照射を推しようするのではなく、他の食品処理法も含めて秀れた方法を推しようするものである」(特定の技術を推しようするものでない)ということを明言された。食品企画委員会？で「WHOはIAEA寄りで食品照射を進める立場で安全性を示している」といった発言をした方がいたが、これは明確に否定された。こういった点を確認できたことは有意義であった。
44	質問者の内容と回答が組み合わないことが多かった。
45	食品照射はあまりにも一般には知られていないことが多過ぎてリスクコミュニケーションのレベルに達していない。食品安全委員会が、当面の問題として議論していないことに非常に不満。私は原子力委員会の専門部会委員をつとめたものだが、極めて精力的に会議を開き検討を続けて、少くとも今日の前半の講演の内容などはすべて承知している。その意味で後半のやりとりは考え方のちがいが如実に出たことが興味深かったが、食品安全委員会 の取り組み方は、大分おけている。食品衛生法の中でもじゃがいもの発芽防止を特例として認めた部分、昭和34
46	ご講演の内容は知っているものばかりでした。新しい知見を得られなく落胆しました。委員会の方はこの内容を要望されたのでしょうか。意見交換というより消費者団体のレベルの低さを感じました

47 いつも一方的に政府(行政)からの説明ばかりで国際機関の立場の人との温度差があり、実務レベルにいる企業の人間にとってはベクトルの方向性を決めかねることが多すぎる。一度両者のパネルディスカッション方式で、両者の意見を同時にきいてみたい(同じ場所で同じ時間に)今日のコミュニケーションで政府と国際的な立場の人との温度差が発生する原因がよくわかりました。